

能登 いまい農場だより 2月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。

私の住む中能登は現在の所、積雪0です。立春を迎え、雪が無いのは生活するうえで楽なのですが、こつも少ないと、春以降の水が心配になります。

インフルエンザが全国的に猛威を奮い、過去最高の患者数だとか、皆様、如何お過ごしでしょうか？

■今年の作付け計画

先日、農業共済組合から、平成31年度の水稲作付け面積確認の用紙が、各農家に配られ、確認をし、(印鑑を)押印して提出しました。それを元に、今年の水稲の個々の農家への作付け面積配分が市町村の農業活性化協議会を通じて行われます。昨年度から、国からの強制的な減反政策が無くなったというものの、各都道府県では、価格の暴落を懸念して調整が行われています。昨年は天候不順の影響で、作況指数で99となり、なんとか、減反廃止1年目は過ぎました。今年から、価格暴落に備えて、米農家への経営保険制度みたいなものが、農業共済組合から促され、加入しました。

価格暴落への危機感もあり、農家サイドの反応は、周りと協調しながら持続的に経営していこうという考えが多いようです。しかし後継者のいるところでは、確実に規模の大型へと向かっています。

当農場では、今年のコシヒカリの作付けを昨年の割合60%から70%に引き上げても良いかなと思っています。そのうち有機栽培(無農薬・有機栽培)は年々少しずつですが、売れ行きが伸びています。2畝の作付けなのですが、もう少し、雑草対策を念入りに行い、収量アップを目指したいと思っています。

■能登半島の祭り

奥能登の一部で、この節分の時期、「アマメハギ」の行事(祭り)が行われました。秋田のナマハゲといった呼び名が有名ですが、その祭りと同じように、鬼などに扮装して、家々を回るお祭りです。「来訪神」といって、ユネスコの文化遺産に昨年末、登録されたばかりです。アマメは囲炉裏で長く暖まると足に出来る火だこのことです。また、「あえのこと」といって、冬の間、家でお休みいただいた神様を田んぼにお帰りにいただく祭りも近々行われます。

中能登でも、来訪神に近い、お祭りがあります。1週間をかけて2市2郡の神社等を神馬、神輿で巡行する、3月に行われる羽咋・能登一宮の気多大社の「おいで祭り」です。能登ではこの祭りを境に一気に春モードになります。私の集落に近い福田区が造った福俵(粃で3升3合入り)を小田中区の白久志山御祖神社に奉納する儀式が数百年前から続いています。この「福俵」、「福田の福俵」と言って私たちの地方では縁起物で結構有名です。